令和5年度 第1回 第9期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

【日時】 令和6年3月5日（火） 午後6時～8時

【場所】 武蔵野クリーンセンター管理棟2階見学者ホール

【出席委員】 山谷修作（委員長）、田口誠（副委員長）、坂井健司、加藤慎次郎、五十嵐孝太郎、落合勝美、古林和佳子、花輪栄一、月川光子、平井真砂郎、大塚省人

【事務局】 ごみ総合対策課長 ほか

【欠席】 なし

【傍聴】 なし

【配布資料】

資料1 第9期 武蔵野市廃棄物に関する市民会議委員一覧

資料2 武蔵野市廃棄物に関する市民会議運営に関する基準

資料3 武蔵野市廃棄物の抑制・再利用と適正処理及びまちの美化に関する条例及び条例施行規則

資料4 廃棄物の処理及び清掃に関する法律、武蔵野市廃棄物の抑制・再利用と適正処理及びまちの美化に関する条例、武蔵野市一般廃棄物処理基本計画（概要版）

資料5 武蔵野市第六期長期計画・調整計画該当部分

資料6 武蔵野市のごみ問題について（スライド資料）

資料7 武蔵野市一般廃棄物処理実施計画（案）

【参考資料】

資料1 武蔵野市一般廃棄物処理基本計画 令和5年度～令和14年度

資料2 令和4年度一般廃棄物処理基本計画事業取組（※第8期第7回資料）

資料3 令和5年版事業概要 廃棄物の抑制・再利用と適正処理

資料4 武蔵野市ごみ便利帳ecoブック 令和6年度

資料5 武蔵野市ごみと資源の収集カレンダー 令和6年度版

資料6 武蔵野ごみニュース vol.31・vol.32

資料7 私たちが出したごみは、どこへ行くの？

1 開会

委員長が開会を宣言。

2 依属状交付

3 環境部長あいさつ

4 委員自己紹介

5 議事

(1) 委員長及び副委員長選任

【事務局】 条例施行規則第4条第3項により山谷委員に委員長、田口委員に副委員長をお願いする。

【委員】 異議なし。

(2) 武蔵野市のごみ処理及びそれに関する計画

【委員長】 事務局に説明をお願いする。

【事務局】 武蔵野市のごみ処理及びそれに関する計画の説明。

【委員長】 事務局の説明に意見、質問はあるか。

【A委員】 プラスチックの一括収集についてプラスチック資源循環促進法に従って収集の回数や頻度を考えていかななくてはならないと思っている。しかし、ペットボトルの毎週収集については、過去に環境負荷の低減を理由に隔週にしたのに、なぜ再び検討するのか。また、この二つについては、同時に検討していくのか。

【委員長】 事務局の回答をお願いする。

【事務局】 ペットボトルの収集頻度は、在り方等検討委員会でコスト、環境負荷など総合的に見直した。その上で、パブリックコメント議会行政報告を経て、現在の隔週化に至った。収集頻度の隔週化は、環境負荷の面ではプラスである。一方で、市民の利便性を考えると、改善の余地があることは否定できない。今回、新市長が公約に掲げていることも含めて検討していく必要がある。プラスチックの一括収集については、プラスチック資源循環促進法に伴い分別や収集において市民に混乱が起きないように検討していく。

【A委員】 調整計画の中で、再び検討するということか。また、ペットボトルの毎週収集とプラスチックの一括収集は、一緒に行うのか。

【B委員】 これまで容器包装プラスチックを分別、収集、資源化してきた。製品プラスチックについても、一括して分別、収集、資源化をする法律を国が打ち出した。そのため、プラスチックの一括収集の検討はせざるを得ない。

また、新市長が選挙公約に挙げたペットボトルの収集頻度の再検討を要請している。そのため、ペットボトル収集の在り方も含めて、全体的にプラスチックの収集、資源化の検討を進める。

まず市では、長期計画があり、10年間の計画である。次に調整計画はおおむねその中間年で、今後の実行計画としての位置づけである。

その時点で新市長が就任したので、長期計画の10年間で位置づけた政策を今後5年間で選挙公約と擦り合わせをおこなっていくのが、現在の調整計画になる。

ペットボトルの収集量は、平成9年から令和4年の間でコロナ禍を踏まえて、当初の見込みからずれている。収集量が増えると、コストも上がる。そのため、当初の見込みから乖離しているのであれば、もう一度検証する必要があるのではないか。という疑問を新市長より投げかけられているということである。

隔週化にする、毎週化にする、という結論を言っているわけではない。大きな市民の議論をしていきたいと思いますというのが今の状態だ。

【A委員】 コロナ禍を経てごみをとりにくく事情が変化したことは理解できた。ペットボトルを毎週収集にすることは大変であり、分別、収集日の変更、収集業者の負担などが心配だ。

【B委員】 市民の意見は多様なので、慎重な検討が必要である。

【C委員】 2点質問がある。まず、一般廃棄物処理基本計画概要版の3ページ令和2年の家庭ごみ排出量は、660グラムで非常に高い。コロナの影響で増えたと思うが、私自身も在宅勤務で外食もほとんどしなくなり家にいる時間が増えたことから、家庭系ごみが増えたことは肌で感じた。その後、令和3年は637グラム、令和4年は618グラムで下がってきている。このことについて事務局は、どのような分析をしているか。

次に、一般廃棄物処理基本計画のごみ排出量将来推計において、推計値が平成30年までの減り方と比べ緩めに推測しているが、コロナの影響を加味した結果なのか。

【事務局】 ごみ排出量の傾向は、全品目で微減である。例外が2点ある。1点目は事業系可燃ごみである。事業系可燃ごみの量が10ポイント以上上昇した。コロナ明けの需要増が背景にある。

もう一点が、ペットボトルで微増の状態にある。これは、コロナ禍の生活様式の変化や在宅勤務などによってペットボトルが、生活に浸透した結果と推察はする。

ほかの品目のごみ排出量は人口増に反して減少している。これは、市民の皆様の協力によるものだ。

【委員長】 ほかに、事務局の説明に意見、質問はあるか。特にないようなので次に進む。

【全委員】 異議なし。

【D委員】 武蔵野市第六期長期計画・調整計画を見ると、最後「検討する」と書かれている。「検討する」という文言を使用するのではなく、長期的な展望で、指針が書かれているとわかりやすい。

【事務局】 長期計画の作成段階では、明確に方針を定めるというよりは、問題に対する対処の在り方を検討していくことがスタートラインになる。そのため長期計画においては「検討」という文字が増える。

一方、個別計画になると、より具体的な話になるので、「実施」という言葉が出てくる。

【D委員】 もう一つ質問がある。一般廃棄物処理基本計画の計画期間は、令和14年、2032年までである。一方で、武蔵野市第六期長期計画・調整計画は2028年までである。それぞれの計画を比較するために、もう少し分かりやすくできないか。

【事務局】 一般廃棄物処理基本計画の3ページに計画期間が載っている。上位が長期計画、下が一般廃棄物処理基本計画になっている。この計画期間を参照するとわかりやすい。

【委員長】 ほかに、事務局の説明に意見、質問はあるか。特にないようなので次に進む。

【全委員】 異議なし。

【委員長】 長期計画という名称が、長期計画・調整計画に変わったのは、最近のことか。

【事務局】 武蔵野市第六期長期計画は、令和2年から11年度までを計画期間としている。

一方、調整計画は、令和6年度からのもので、最近表に出たもの。そのため、令和6年度から上位計画として見ていく。

市の長期計画は、10年の計画のうち、おおむね中間年のところに調整計画がある。第六期長期計画では、令和2年から令和11年が計画期間になっている。この期間中に新市長に替わったため、市内では、第二次調整計画（仮称）で市長の選挙公約を踏まえた調整計画を立てる議論が始まっている。

【委員長】調整計画においてごみの排出量の数値は、もう修正されているのか。

【事務局】分野ごとの数値は個別計画に記載されている。長期計画などの最上位計画は、より概念的な内容が記載されている。

【委員長】ほかに、事務局の説明に意見、質問はあるか。特にないようなので次に進む。

【全委員】異議なし。

【E委員】初めての委員として確認したい。この委員会は、計画立案や、広報の在り方を検討していく委員会としてとらえてよろしいか。

【事務局】武蔵野市一般廃棄物処理基本計画29ページにある施策の体系、基本施策の中の啓発の拡充が、重点施策になっている。施策の実行に当たって皆さんと議論したい。

【E委員】昨年11月の環境フェスタで私とキン・シオタニさんでトークショーをやらせていただいた。そのとき感じたが、SNSや紙の告知も大事だが、多くの方に集まっていたいて知ってもらおうという機会をどうやってつくっていくかというのも議論したい。

【委員長】ほかに、事務局の説明に意見、質問はあるか。特にないようなので次に進む。

【全委員】異議なし。

【委員長】事務局から、その他について説明をお願いします。

【事務局】その他に関する説明。

【委員長】ほかに、事務局の説明に意見、質問はあるか。特にないようなので次に進む。

【全委員】異議なし。

6 閉会

【委員長】以上で第1回 第9期武蔵野市廃棄物に関する市民会議を終了する。